

No	区分	海岸タイプ			調査月日	帯・状・構・造 (Zonation)			
		内湾	開放	転石		潮上帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯
86	K			内湾	5-25	イソミズ"群	不明瞭	シボリガイ群	ウスヒサハラガイ群 ウミトラノオ フロソソ
				開放	9-15	ヒメハマトビムシ群	不明瞭	アサリ群	ウスヒサハラガイ群
				内湾	5-24	アラレタマキビ群	アサアオサ ウミトラノオ イロロ	ムラサキガイ アサアオサ ウミトラノオ	イボニシ群
87	J			開放	9-18	アマガイ アラレタマキビ群	セミアサリ群	不明瞭	
				外海	5-22	アラレタマキビ群	カギメリタヨコエビ スリコギスタ サンゴ"モ SP.	不明瞭	
88	J			保護	9-4	不明瞭	アブウガイ群	不明瞭	
				外海	6-10		ムラサキイノコ イワフジツボ	イリハギガイ ヒバリカイツボ シワノカク	ヤッコカンザシ群
89	J			保護	9-16		イワフジツボ ヤッコカンザシ	ヤッコカンザシ群	ナガレカンザシ群

No	区分	海岸タイプ		調査月日	帯			状			構			造			(Zonation)			
		外海	磯		潮上帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類
90	J	外海	磯	6-9	ムラサキガイ群	イワジツボ	イワジツボ類	ムラサキイノコ	クワジツボ	クワジツボ群	ウミナシ群	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類	端脚類
					ケガキ	クワジツボ	クワジツボ群	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ
91	K	内湾	磯	5-25				コビトウラス	タマキ	タマキ群										
								イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ
92	K	外海	磯	5-24	アラタマキビ群	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ
					アラタマキビ群	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ	イワジツボ
93	L	外海	磯	5-6	イボタマキビ群	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ
					イボタマキビ群	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ
93	L	外海	磯	9-1	イボタマキビ群	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ
					イボタマキビ群	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ	イボタマキビ

No	区分	海岸タイプ	調査月日	帯・状・構・造 (Zonation)			
				潮上帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯
94	L	外	5-23	アマミクビレガイ群	イニダタミ カフベンケイガイ群	アサリ 4メニトゴカイ群	マツバウミジブガイ群
		包		アマミクビレガイ群	イニダタミ群	カンギク群	マツバウミジブガイ群
		泥	9-17				
		囲					
		海					

4. 問題点と今後の方向について

海域環境は、多様性に富み、それに対して生物相も変化する。特に近年は、人為的環境変化が生物に対して多大なる影響を与えており、社会問題に発展している。また、気象、海象などの自然界の変異に対して、生物相が変化することはいうまでもない。これらの要因は、海洋生物における調査で重要な要素となる。単に生物現象そのものを直視するのではなく、生物界のまわりの要因についても目を向ける必要がある。

今回の調査結果については、先に述べた事項がないため、それぞれの生物現象に対して考察することに限界がある。今後、今回と同様な調査を実施するとともに、環境要因についても調査することが望まれる。

参 考 文 献

- 新崎敏盛、堀越増興、菊地泰二（1978）：海洋科学基礎講座(5)、海藻・ペントス、(東海大学出版会)
- 時岡隆、原田英司、西村三郎（1972）：生態学研究シリーズ第3巻、海の生態学、(築地書館)
- 津田松苗、菊地泰二（1975）：環境と生物指標2、水界編、(日本生態学会環境問題専門委員会編)
- 山本護太郎（1973）：海洋学講座(9)、海洋生態学、(東京大学出版会)
- 吉良哲明（1954）：原色日本貝類図鑑、(保育社)
- 波部忠重（1961）：続原色日本貝類図鑑、(保育社)
- 瀬川宗吉（1956）：原色日本海藻図鑑、(保育社)
- 内田享（1979）：新編日本動物図鑑、(北隆館)



第2回自然環境保全基礎調査

海 域 調 査 報 告 書

海 域 生 物 調 査

(全 国 版)

昭和56年3月31日

調査受託者 東洋航空事業株式会社
東京都豊島区東池袋3丁目1番1号
サンシャイン60 32階
(TEL) 03-987-1551(大代表)

環境庁委託

